

平成26年度 第2回千葉県スポーツ推進審議会 会議録の概要

開催日 平成27年3月17日(火)
 時間 15時～16時40分
 会場 千葉県スポーツ科学センター
 第2・3・4研修室
 (千葉市稲毛区天台町323番地)

<出席委員> (敬称略50音順)

荒川 昇 黒川 仁美 高坂 俊介 高橋 直子 中村 恭子 浪越 一喜 畑佐耕一郎
 花岡 伸和 広島 佑子 柳川 尚子

<オブザーバー>

齊藤 文秀 (欠席) 山崎 成夫

<出席事務局職員>

千葉県教育委員会

健康福祉部 健康づくり支援課 地域健康づくり班
 障害福祉課 地域生活支援班
 高齢者福祉課 在宅福祉推進室
 保険指導課 介護保険制度室
 商工労働部 観光企画課 観光企画室
 県土整備部 公園緑地課 県立公園室
 企画管理部 教育政策課 教育立県推進室
 教育振興部 生涯学習課 学校・家庭・地域連携室
 学校安全保健課 給食班
 指導課 教育課程室
 体育課

教育次長 梅木 弘之

主事 蒲生 忠明
 主事 市原 一樹
 副主幹 石丸 恵子
 主事 山口 勘治 (欠席)
 観光推進委員 櫻井 新也
 副主査 金内ちひろ
 副主幹 久我 高之
 主査 野路 明生
 指導主事 清水 孝
 指導主事 岩崎 元
 課長 越川 均
 副課長 北林 栄峰
 副参事兼室長 櫻井 博幸
 副主幹 岩埜 直史
 主席指導主事兼班長 牧田 正彦
 指導主事 林 俊則
 班長 桐原 孝文
 主査 柳生 浩之
 指導主事兼班長 川崎 浩祐
 主幹兼室長 嶋田 武彦
 指導主事 大谷 泰彦
 指導主事兼班長 黒川 昭宏
 指導主事 瀧口 正勝
 指導主事 長岡 知
 指導主事 岩倉 貞実
 指導主事 宮内 博史
 指導主事 磯辺 邦彦
 副主幹 鹿倉 健治
 主査 佐藤 貴弘

ちばアクアラインマラソン準備室
 同
 学校体育班
 同
 施設・調整班
 同
 競技力向上班
 高校総体推進室
 同
 社会体育班
 同
 同
 同
 同
 同
 同

<次 第>

- 1 開 会
- 2 教育次長挨拶
- 3 議 事

[報告事項]

- (1) 煌めく青春 南関東大会2014 千葉県開催種目報告について
- (2) ちばアクアラインマラソン2014について
- (3) 国際千葉駅伝について
- (4) 第69回国民体育大会について
- (5) 平成26年度全国高等学校総合体育大会について
- (6) 平成26年度全国中学校体育大会について

[協議事項]

- (1) 第1回審議会での意見への回答
 - (2) 平成26年度「千葉県・体育スポーツ推進事業」実施報告について
 - (3) 平成26年度「第11次千葉県体育・スポーツ推進計画」点検・評価結果について
 - (4) 平成27年度「千葉県・体育スポーツ推進事業」取組について
- 4 閉 会
 - 5 諸連絡、その他

スポーツ推進審議会 議事録

事務局 開会のことば

次長 教育次長挨拶

本日は、御多忙のところ、委員の皆様には、平成26年度第2回スポーツ推進審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、本県のスポーツの推進に御理解・御協力をいただきますことに、改めて、お礼申し上げます。

昨年は、煌めく青春南関東総体2014、本県では8競技を開催しました。

また、10月19日には第2回ちばアクアラインマラソンが大盛況のうちに終了し、第3回目を実施することが決まりました。この後、担当より大会の報告をいたします。

さて、東京オリンピック・パラリンピックも5年後に迫り、国は、10月のスポーツ庁の設置に向け、急ピッチで稼働を始めました。

県でも、キャンプ地の誘致や一人でも多くの選手を県内から送り出すことを目指す県のプロジェクト「めざせ東京オリンピックちばジュニア強化事業」に加え、障害者スポーツの強化にも努めてまいります。

第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」も3年を終了することとなりますが、今年度は事業の拡大を図り千葉ロッテマリーンズの協力により「ちば夢チャレンジパスポートプロジェクト」を実施し、小学生約1万6千人が観戦やキャリア体験活動を行いました。

トップ・プロスポーツ活用連携事業では、9事業を実施し、楽しく、生き活きと、スポーツ教室に参加していました。指導者側も「子どもたちの笑顔は宝物です。」とコメントをいただき今後も、横断的、総合的な取組として推進してまいります。

結びに、委員の皆様には、専門的な視点から、御意見・御助言をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

事務局 それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。本日の次第、それから座席表がそれぞれ1枚。なお、事前に送付させていただきました、次第につきましては修正がございますので、本日、机上にあります次第で進行させていただきたいと思っております。関連法案等記載のもの。それと、委員名簿及びオブザーバー名簿が、資料1でございます。続きまして資料2でございますが、報告事項のレジメと、別添関係資料でございます。資料3としまして、協議事項の内容レジメ、別添資料として推進計画のリーフレット、平成26年度第11次千葉県体育・スポーツ推進計画、点検・評価でございます。以上でございます。

過不足がありましたら、挙手願います。

事務局 本審議会の議長でございますが、これまでの慣例によりまして、荒川会長に議事を進めていただきたいと思います。荒川会長、よろしく願います。

〔報告事項〕

議長 それでは、しばらく議長を務めさせていただきます。今日は、委員の皆様、全員が御出席ということで、活発な意見をよろしく願います。早速、次第に沿って報告事項を、事務局願います。

事務局 大変恐縮でございます。会長・副会長、プロジェクターを使って説明をしたいと思っておりますので、お席の移動をお願いします。申し訳ございません。

事務局 煌めく青春 南関東大会2014 千葉県開催種目報告について
(総体準備室から説明)

事務局 ちばアクアラインマラソン2014について
(ちばアクアラインマラソン準備室から説明)

事務局 国際千葉駅伝について・第69回国民体育大会について
(競技力向上班から説明)

事務局 平成26年度全国高等学校総合体育大会について・平成26年度全国中学校体育大会について
(学校体育班から説明)

事務局 それでは、荒川先生・浪越先生、お戻りいただき進行をお願いいたします。

議長 ただいま、報告事項6項目、一括して報告いただきました。この報告事項に対して何か、御質問・御意見がございますか。よろしいでしょうか。
無いようですので、次に、協議事項に入ります。事務局から、説明をお願いします。

〔協議事項〕

事務局 資料3の1ページをお開きください。

第1回の審議会では、委員の方々お一人ずつ、多くの御意見をいただきありがとうございました。意見や質問については、主なものを1ページ目にまとめてありますので、簡単に1つずつ回答させていただきます。

①については、

『国際総合水泳場の65歳以上無料の設定を見直してほしい。』との御意見がありました。

教育委員会所管の各施設と調整のうえ、見直しを検討していくことになりました。

②については、

『食育推進事業として公開授業を年2回行っています。今後は学校職員だけでなく保護者にも参加を呼びかけることを検討していると聞いています。保護者に対して食育について理解を求めるような指導を推進してほしい。』との御意見がありました。

教育委員会が進める「地域における食育指導推進事業」では、対象は保護者を含めたものとしており、その取組として食に関する指導の授業参観、親子料理教室、保護者向けの食育講演会等を行っております。今後もこの事業を推進してまいります。

③については、

『2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた事業の進捗状況はどうなっているか』との御質問がありました。

現在行っている事業は、『めざせ東京オリンピックちばジュニア強化・支援事業』です。この事業は、「特別強化支援」と「基礎強化支援」の2つの柱で構成しています。

特別強化支援120名 基礎強化支援411名 合計531名を強化指定しています。

具体的な事業として海外遠征など316の事業が進行中です。

今年度の強化指定選手の成績は

- ・アジア競技大会に13名が出場し6位以上の入賞が12名でした。
- ・国民体育大会には159名が出場し8位以上の入賞が80名でした。
- ・また、27年度からは、新たにパラリンピックに向けた、障害者アスリートの強化も開始します。
- ・事業名は、東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業です。

これにより、健常者と障害者アスリートが一体となった強化を展開してまいります。

④については、

『千葉の資源である「自然」を活用するスポーツと絡めて、観光や経済を活性化ができるようなイベントを作ってほしい。』との御意見がありました。

本年度は、九十九里沿岸の6市町村等が主催した「九十九里トライアスロン2014」に対して支援を行いました。この大会は、全国から約2,000名の選手が参加する国内最大級の大会であり、観戦客など約1万人の動員があったと聞いています。

今後も、市町村と連携し、千葉の資源である自然を活用するスポーツイベントにより、観光振興につながるよう取り組んでまいります。

⑤については、

『少子化による学校の運動部活動の部員数減少に加えて、指導者の高齢化あるいは退職による運動部活動の衰退が懸念されています。運動部活動活性化のため、指導者の適性確保・配置をお願いしたい。とりわけ競技人口の少ないマイナー競技では、早急に対応願いたい。』との御意見がありました。

学校現場では、ここ数年新規採用者の増加により若手教員が増えています。県教育委員会や学校、競技団体においても、研修会等で若手指導者の育成に努めております。

指導者の適性確保・配置につきましては、人事のことですので難しいところはありますが、できる限りの配慮をしており、今後も続けてまいります。

⑥については、

『2020年までの期間はオリンピック開催準備をするとともに、オリンピック教育を学ぶ機会でもありません。子どもの体力向上と体育の充実に向けて、オリンピック教育そのものを教育の中に入れていただきたい。』との御意見がありました。

学習指導要領の改訂により、体育理論の授業が中学3年生から導入されました。JOCでは、オリンピック教育の体現者であるオリンピックを先生として、オリンピックの価値を伝える授業を行っているようです。県でもこのことを受けて、次期計画の施策の中に入れていくことを検討していきたいと考えています。

⑦については、

『競技スポーツの強化・普及にかける予算に比べて、学校体育にかける予算が少ないのではないかと。学校体育にかける予算を増やしていただけないか。』との御意見がありました。

学校体育の予算は、本年度は高等学校の部活動へ外部講師を派遣する「スポーツエキスパート」事業が増額されるなど、増えているところもありますが、確かに競技に比べると少額に思えます。しかし、少ない予算の中で成果を上げることを目指し、「遊友スポーツランキングちば」や「授業マイスター制度」などでは、工夫により大きな成果を上げています。今後はこうした知恵を絞り続けるとともに、さらなる予算増額に向けて検討していきたいと考えています。

⑧については、

『県総合スポーツセンターの再整備のおりには武道館、体育館等には空調設備を入れてほしい。』との御意見がありました。

総合スポーツセンターの武道館においては、東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致を進めるため、新たに空調設備を整備するための実施設計費を平成27年度当初予算に計上したところです。

⑨については、

『障害者スポーツレクリエーションセンターを施設開放しているということだが、これだけで障害者の方々が満足にスポーツをできるとは思えない。障害者スポーツの普及には、障害者の方とスポーツをどのように出合わせるかが大切であるので、障害者の方々が一般施設をもっと使えるようにする方策を検討してほしい。』という御意見がありました。

千葉県障害者スポーツレクリエーションセンターに係る施設の課題は、認識しているところです。

そこで、平成27～29年度に実施する第五次千葉県障害者計画（素案）において

- 1 施設の充実及び利用促進のためのPRを図る。
- 2 地域スポーツ施設との連携により、拠点としての機能の充実を図る。
- 3 障害者スポーツ指導者の充実を図り、障害者スポーツの普及を図る。

としています。

以上でございます。なお、次第の2・3については、この後、担当より報告します。

議長 ただいま、前回委員の皆様から出た質問に対する回答が、課長からありました。ここまでで、一括・順不同で結構ですので、御質問・御意見・補足等がありましたら、御発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

私も、スポーツ推進審議会にかなり長く参加していますが、こういう形で、前回の質問に対して項目を立てて、回答があったのは初めてで、大変良いケースだと思いますので、次回も活かしていただきたいと思っております。

特に質問された方、関連してさらに再質問ありましたらお願いします。いかがでしょうか。

委員 お願いです。7番の、『学校体育の予算を増やしていただけないか』の回答ありがとうございます。スポーツ指導者、競技スポーツの指導者を育成することも大事です。しかし、中高や小学校の体育の授業、教員に対しても、千葉県全体で悉皆講習をやっていただきたいと思っております。他県での様子を伺うと、悉皆講習を必ず受けているとのこと。例えば、柔道やダンスなどに対して、全員が、必ず講習を受けるという県がありました。他県に比べると、千葉は、遅れているというか、放置されているなど感じます。よろしくお願いします。

議長 いかがでしょうか。やりとりは座ったままで結構です。

事務局 本日、資料を御提出することができなかったのですが、千葉県といたしましても、教員の指導力向上についての講習会は、全県も含めまして進めております。御指摘の部分につきまして、来年度は全国的な規模として、東部地区の実技講習会が千葉県で開催されます。最新の指導力の向上のために、推薦された者や希望する者を集めまして講習会も予定されております。当然のことながら、教職員の指導力の向上は、関東の諸会議で重要な課題として取り上げられております。その点につきましても、今後とも進めていきたいと考えております。

議長 よろしいですか。

委員 ただそのパターンだと、何人かの選ばれた方達だけが講習を受ける形で、その後学校の中で伝達講習を受ける形になると思います。全教員が講習会に出られる機会を作っていただくということが大切だと思います。先生方はお忙しくて、いろいろな学校内の公務に追われていて、必修と言われないと、なかなか講習に出る機会が無いと聞いております。これは強制だよと言われれば、参加する側も気がねなく参加できるというような形をとっていただければと思います。

事務局 説明が、もう一点ございました。国レベルの講習を受けた受講生が、県に戻り、受講した者が事務所管内で、ほとんどの教員が参加する講習会を開催しています。1泊2日もしくは、1日を通した形で、現在行われております。地域差がございますので、それほど実施されていないというところがあれば、手を加えておきたいと考えています。

議長 そういう悉皆研修も含めて、千葉県が特に他県に比べて、劣っているという点はあるのですか。

事務局 申し訳ありません。その調査につきましては、どのくらいのレベルにあるか、回数的なものを把握していないので、残念ながらこの場では、回答できません。

議長 おおよそ、他県でも同じように、国・ブロック・県・地区という形になりますよね。

事務局 そうです。

議長 他に前回の質問に対して、ございますか。

ないようでしたら、今日の終了予定時刻が4時半なので、あと50分ほどあります。協議事項の方に入ります。

事務局 「スポーツ立県ちば」の実現に向けて、本計画の新規事業を中心とした重点施策をパッケージにまとめ、昨年度の点検・評価の結果を踏まえ、計画実行3年目として、事業改善に努めるとともに、事業を実施しました。

計画の柱1「生涯スポーツの推進」の取組として、平成25年度より毎年10月を「スポーツ立県ちば推進月間」と位置付けました。県民より公募いたしました「スポーツで元気いっぱい明日(あす)の千葉」スローガンのもと、ふだん運動に親しむ機会の少ない方々へ「機会・場所・情報」を提供し、運動に親しむ「きっかけ」づくりやスポーツへの参加機運を高めてまいります。今年度も「のぼり」を作成し、県内のスポーツ施設やイベント開催時に掲出しました。

また、2つめの取組として、「スポーツで元気いっぱい親子体験イベント」を開催いたしました。これは、地域スポーツ推進の中核となるべき総合型地域スポーツクラブと近隣小学校が連携してスポーツ実施率の低い「子育て働き世代」を対象に「親子体験イベント」を県内7か所で開催したものです。

次に、**柱2「子どもの体力向上と体育の充実」**にける新規事業としまして「幼児期における体力づくり」では、園長をはじめ、幼稚園教諭など、指導者に対し、幼児期の運動遊びの重要性について理解して頂くため、研修会、講習会を開催いたしました。今年度は保護者の理解を深める取組として研修会を開催していただきました。

次に、**柱4「スポーツ環境の整備」**に位置づく「システムづくりの推進」の取組として、総合型地域スポーツクラブ自立支援事業につきましては、平成24年度より総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携し、総合型地域スポーツクラブ交流大会(スポネットちば)を開催しております。

この交流大会では、千葉県総合スポーツセンターを会場に県内全域からスポーツクラブが一堂に会し、交流を深める大会です。今後も総合型地域スポーツクラブの育成・発展への支援をしていきます。

最後に、**柱5「スポーツを活用した地域の活力づくり」**に位置づく「プロスポーツを活用したスポーツの推進」の取組としての新規事業「トップ・プロスポーツ活用連携事業」について説明します。

学校体育や地域スポーツの推進に向け、トップ・プロスポーツ団体とマッチングする「しくみ」の研究・検討をすすめ、県内のトップ・プロスポーツ団体と連携し事業を実施しました。

「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」ですが、千葉県教育委員会と千葉ロッテマリーンズが共同で実施する初の取組で、地元千葉県の小学生を対象に、子どもたちがスポーツへの夢やあこがれを抱けるよう、トップアスリートの卓越したパフォーマンスを観戦しスポーツの魅力に触れてもらうことに加え、ゲーム運営の舞台裏、球場内の施設見学、スタジアム・スタッフ体験を通じたキャリア体験の場を提供し、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進を図ることを目的として、県内の小学生約16,000名が参加しました。

また、もう一つの取組である「ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」ですが、県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手(現役・OB、コーチ、アスレティックトレーナー等を含む)を講師として派遣し、体育・スポーツ活動での交流をとおして、広く子どもたちにスポーツの楽しさを体験させることを目的として昨年度は県内公立小学校・中学校(9校)で学校訪問を実施しました。次年度もトップ・プロスポーツ団体との相互交流を深め、スポーツの推進に取り組んでまいります。

また、県民体育大会におけるスポーツ体験等のサブイベントですが、毎年10月に県内各市町村で開催される県民体育大会の会場で、より多くの県民が「する・みる・ささえる」、それぞれのかかわりで、大会に参

画できるようサブイベントを開催しました。次年度は、各事業の成果や課題を踏まえ、県民に夢や希望を与え、より多くの県民にスポーツの楽しさや感動を与えるとともにスポーツへの興味・関心を高められるよう、事業を展開してまいります。

つづいて、第11次「**体育・スポーツ推進計画**」の点検評価の総括について説明します。

第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」には、5つの基本施策について、施策ごとに指標（目標項目）が掲げられています。施策ごとの指標（目標項目）の中には、「全国体力・運動能力調査」のデータや、児童生徒及び成人を対象とした「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の結果を踏まえ、その指標の達成状況を参考としながら、施策・事業等の実績を明らかにするとともに、課題を分析し、今後の取組について対応の方向性を検討しました。

柱1「生涯スポーツの推進」の

現状・成果については、成人の週1回以上のスポーツ実施率を指標とし、60%を目標に掲げています。平成23年度の県民世論調査では36.8%でしたが、平成24年度は44.8%、平成25年度は46.5%、平成26年度に実施した県民の「運動・スポーツに関するアンケート調査」結果では44.0%でした。今後の取組は、20歳代～50歳代の子育て、働き世代のスポーツ実施率が依然、低い傾向を踏まえ、事業を推進していきます。

柱2「子ども体力向上と体育の充実」の

現状・成果については、柱2では、小学生における新体力テスト平均点を指標とし、50点を目標に掲げています。平成25年度の数値が49.5点で順調な増加傾向が見られましたが、平成26年度は49.5点と横ばいとなりました。

今後の取組は、柱2の指標である小学生における新体力テスト平均点では握力、投力種目で低下傾向にあること。「体育授業が好き」と答える割合が前年度と同様に中学校の女子が顕著に低下傾向になることを踏まえ、教科体育・スポーツの充実を目指します。

柱3「競技力の向上」の

現状・成果については、柱3では、国民体育大会での都道府県対抗順位を指標とし、8位以内を目標に掲げています。平成26年度は、男女総合10位、女子総合6位という結果でした。

今後の取組は、競技ごとの勝因・敗因を分析・整理した上で、実効性のある強化計画を策定し、次年度の競技力向上推進本部事業に反映させることで、和歌山国体での男女総合・女子総合入賞を目指します。

また、この中で育ったトップアスリートなど優れた人材を活用し、本県における競技スポーツと地域スポーツの好循環を推進します。

柱4「スポーツ環境の整備」の

現状・成果については、柱4では県内総合型地域スポーツクラブへ加入している会員数を指標とし、22,000人を目標に掲げています。平成25年度は32市町に72クラブ（2増）、19,495人（1,694人増）でしたが、平成26年度は75クラブ（3増）、20,064人（569人増）と増加し、概ね順調にすすんでいると評価しています。

今後の取組は、総合型地域スポーツクラブ育成率については、前年度と同様、横這いであったが、次年度は市町村訪問に加え、県北東部の未育成市町村への啓発活動を計画的、継続的に実施し、総合型地域スポーツクラブの創設を推進していきます。

柱5「スポーツを活用した地域の活力づくり」の

現状・成果については、柱5では、県内各地で開催されるスポーツ大会・イベントへ参画（する・みる・ささえる）意欲の割合を指標とし、経年増加を目標としています。平成25年度のアンケート調査結果では県内72.4%「するスポーツ」（10.6%）「みるスポーツ」（50.9%）「ささえるスポーツ」（10.9%）でしたが、平成26年度は67.6%「するスポーツ」（10.7%）「みるスポーツ」（49.6%）「ささえるスポーツ」（8.3%）となり参画意欲のやや減少傾向がみられました。

今後の取組は、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」への主体的な意欲を高め、事業を推進していきます。

事務局 では、第11次の体育・スポーツ推進計画の点検・評価、平成26年度の総括ということで、いま5つの柱についての、事業等も含めての報告がありました。これは、協議事項でありますので、一つずつ進めて

いきたいと思います。御意見ございましたら、遠慮なく御発言ください。

まず、柱の1『生涯スポーツの推進』については、いかがでしょうか。御意見がございましたら、スポーツ実施率のグラフが出ていますけれども、最終目標60%。ということです。

委員 若い世代の実施率が低いということは、どこの地域でも同様の問題を抱えていると思います。どのように対策を立てて、彼らが運動をしやすいような状況を作ろうとしているのか、県としては具体的に何をするのかをお聞きしたいです。

事務局 一つにはここに書いてあります、総合型地域スポーツクラブを増やすということがあります。委員のおっしゃるとおり、総合型地域スポーツクラブには入っているのは、働き盛りの成人が少なく、子供や高齢者が多いという現状でありますので、今現在、我々として取り組めることは、働き盛りの人に運動しやすい環境を作っていくことだと考えております。それには、総合型地域スポーツクラブを地域における運動できる場所の一つとして増やし、また、スポーツ施設を充実させることもあると思います。具体的には、直ぐにできませんが、少しずつスポーツセンターの施設であるとか、各市町村にまでに働きかけはできていないが、各施設を増やすということも必要かと考えます。アクアラインマラソン等の事業を活用し、マラソンの愛好家を増やすなど、そのような試みから、していくということではないでしょうか。

委員 都市部ですと、例えば人口の多い東京都内ですと、民間のスポーツクラブがどんどん作られていて、働き盛りの年代の平日夜間の利用者も多いと聞いています。利用料、年会費も結構高いのですが。千葉県で土地を安く提供し、誘致をするということは検討されないのでしょうか。

事務局 民間のスポーツクラブへの働きかけについては、現在、我々の中では、考えていません。

議長 私は千葉市内ですが、高齢者ですから、できるだけウオーキングだけはやろうと思っています。サイクリングロードを歩きます。土日になると、働き盛りの人を含め非常にたくさんの方々が歩いたり、走ったりしています。その数というのは、びっくりするぐらい多いのですが、皇居一周のマラソン同様に、ああいう形でスポーツに参加している人達が、この中に含まれるのかどうかということもありますし、そういった人たちを、何かクラブみたいなものを介して、総合型まで行かなくても、何か組織として、取り組むことができなにかと思っています。このような事について、難しいかもしれませんが行政がどの様に関わっていくか、一つの方向性として考えられると思います。

他にございますか、1番目の柱について。ないようでしたら、2番目の柱に行きましょう。『子供の体力の向上と体育の充実』です。いかがでしょうか。

委員 子供の体力づくりは、必要なことだと思います。昨年でしたか、新聞に体力づくりの結果が出ていました。私も福井県に興味をもちまして、HPで調べましたが、福井県は雪国で雪が多いのに、なんで、そういう所で体力がつくのかなと思いました。縄跳びを、使っているようです。ここの新体力テストの結果をみると、縄跳びという項目がありません。普段例えば遊びの中で、上体起こしや前屈はやらないと思います。普段から、体力づくりに繋がる遊びをやって欲しいと思います。たとえば、縄跳びがあります。ランニングもあります。1kmを何分間で走れるというのではなくて、3分間で何m走れるのか。それぞれが、個人の目標を立てるきっかけになる。そうすると、小学校1年生の時は3分間で何m走れた。1年経ち、2年生になったら、何m多くなった。1年ごとに個人の体力アップ目標を立てて実施していると、個人としての頑張る意欲も出てきます。1年間を通した活動を、6年間続け、体力づくりを、個人の結果のデータとしてグラフを作ると、目標も、意欲も、出てくるのでは。千葉県は、小学校5年生、中学校2年生の体力づくりで、全国8位か7位くらいでした。良い方だとおもいます。

今後、全体の能力を上げるというよりも、個々の能力を、個々が高めるには、個人の成長過程としての1年ごとのデータをとっていただいて、個人の目標を立てると、もっと伸びていくと思います。新聞を見て、思いました。新体力テストの結果を、個人個人が、複数年間に渡り追い続け、伸び率を数値化して計るのも難しいと思いますが、子供さんがやる気が出るような、測定をお願いします。私もそのような点から、福井県の体力づくりの結果を見せて頂きました。ぜひ、福井県のHPを見て頂きたい、参考になると思います。

議長 はい。どうぞ。

事務局 ありがとうございます。千葉県の子育て支援HPも見ていただくとありがたいです。体力づくりには相当に力を入れています。特に『遊友スポーツランキング千葉』ということで、小学校・中学校の昼休みに外遊びを奨励しています。そこで、縄跳びとか、他の種目も沢山あって、小学校で23%の実施率、中学校が8.1%、高等学校になりますと3.1%になってしまいます。その中で評価をして体力づくりを、外遊びの面からも攻めていこうと思っています。

また、個人のデータを累積していったと、大変素晴らしい案をいただきました。私どもとしましては、校内、各学校に体力の向上に関わる組織を作って、その中で、自分たちの学校の子供たちが、如何に体力をつけていくかの取組の推進をしています。体育主任を集めての会議もありますので、そのような場で、個人のデータを把握して、行動できるような指導をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

委員 私は、HPを見ていないわけではないです。私は地元で、2つの小学校の学校評議員をさせていただいています。その会議の中で校長先生と、色々なお話しをします。その中で、千葉県の中で・船橋は、体力測定の結果が、低いと聞いています。ですから、全体な能力を高めるには、まず幼い時には、個々の能力を高めることが、よいと思いますので、意見を述べさせていただきました。

議長 体力の向上というのは、永遠の課題ですよ。

委員 子供の体力の所で、幼児期の体力づくりの推進の項目を見ると、幼児の2時間以上実施する率が低いのが気になります。これは、親御さんの理解が足りないのか、遊べる環境がないのか、いろいろな分析があると思うのですが、子供の肥満の問題や、生涯にわたる健康・体力づくりという意味でも、幼児期の運動の体験は、大きいと思います。何とか、この数字を上げるすべはないものかと思っています。もちろん、行政のすみ分けもあると思いますが、母子保健や健康推進の行政の方と協力するなどして、親に、子供にとっての運動の大切さや、こういう所でお子さんと一緒に遊べる環境があるよという情報提供ができないものかなと思いますが、いかがでしょうか。

議長 いかがですか。

事務局 幼児期につきましては、私どもも、取り上げて2年目ということで、まだまだのプログラムもございます。推進会議で御意見をいただく中で、年次計画の中にも書いてありますが、指導者・保護者の理解を深めることから始めようということから、今年も南房総の幼稚園に伺い、専門的な講師をお願いして、その地域の幼稚園の先生方の研修会を開きました。全国的に幼児期の体力づくりについては、文部科学省からも案が出ており、大切なことですので、私どもも、幼児期からの体力づくりにつきましては、計画の中で実践的な体制を作っていきたいと思っています。

委員 幼児期の体験は親がかりだと思しますので、親の意識を高め、力を入れて頂けたらなと思います。よろしくをお願いします。

委員 千葉ロッテマリーンズの地域振興を担当しています高坂です。前回欠席しまして、今回初めてです。よろしくをお願いします。

子供の体力向上についてですが、是非私どものプロスポーツチームを活用していただければと思います。県内の小学校にトップチームが授業で、我々マリーンズが野球を教える訪問をさせていただきました。我々の担当したコーチは、元プロ野球の選手の武藤が参加をさせていただきました。武藤が曰く、「小学校の子ども達の体力を上げるのは、簡単です。」と言っていました。何かというと、投擲能力の点から言うと、小学校の生活の中で投げましようと言うことで、実際に子供たちに投げさせてみたところ、足が横を向いている、投げる時に下を向いて投げる、というような子供たちがすごく多く見られました。こういった部分で我々プロスポーツチーム、野球、サッカーやラグビー、それぞれ強みがあると思いますが、そういったコーチを活用していただければ、子供たちにプロのスポーツチームを通して、ワクワクするところから、実際に能力を高めながら、運動の基礎も育てることもできると思います。26年度は少ない数の派遣でしたが、是非、本年

度は増やしていただきたいし、先程からいくつかお話があがっています、教員の授業研究会にも我々も参加させていただければ、より高いレベルでの議論もできると思いますので、是非よろしくをお願いします。

委員 素晴らしい御提案ありがとうございました。小学校の先生というのは、保健体育の専門の先生がいっぱやなくて、大学では全教科を平たく学んで教職に就いている先生方なので、特に運動の指導に関して良く分かっていないで形だけ授業をしている先生が、申し訳ないですが、少なくありません。ですから、小学校の先生にこそ、運動指導の講習会を開いて、効果的な指導ができるようになるよう、千葉ロッテマリーンズの方で指導力を高めて頂ければと思います。よろしくをお願いします。

議長 黒川さん。JOCもスポーツ含めて、やっていますよね。

委員 JOCは、残念ながら子供の体力向上という部分に特化していません。また、直接選手を指導する現場には入っておりません。先程ご紹介がありましたオリンピック教室などでは、オリンピック選手が学校へ行った際に、技術的なアドバイスをすることもあります。高坂委員も発言されたとおり、実技講習で小・中・高の先生方と専門的なコーチ・トレーナーの方が一緒に、千葉県として長い間低下がみられる握力・投力種目に特化したプログラムを考えていただき、それを図にしたものを、各小・中学校に配布するような働きかけをされれば、子供たちの体力向上につながるのではないかと思います。

議長 プロ野球の方とJOCの方と、全国レベルのお話しありがとうございました。時間の関係もありますので、3番目の柱に行きましょうか。『競技力の向上』、これについては、いかがでしょうか。広島さん、トップクライマーの立場で、国体・日本選手権・国際大会に参加して見て特に感じる点、こういうふうな事があれば、もしくは、できれば良いなという事がありましたら、遠慮なくをお願いします。

委員 前に戻ってしまうのですが、私自身も小中学校の頃は、体育の授業が好きではありませんでした。スポーツテストがあっても、ハンドボール投げはどんなに頑張っても、8mに届きませんでした。自分の座席表を見ると、トップアスリートという名前をいただき、国体競技に出たりするのは、指導者に会うことができからです。私個人に対する目標を立て、一人一人に合わせたプログラムを作っていたりして、上達や達成の喜びを味あわせてもらうことを通して、今、国体とかその他の競技会に出ることができたと思います。体育の授業から、上達と達成を感じていけるような内容でやっていければ良いのではないかと、皆さんのお話を聞き感じました。競技力の向上は、そういった点から繋がっていければ良いなと思います。また、握力に関して言えば、クライミングという競技をやっているのも、もしかして学校の授業に取り入れてもらうことにより、良くなっていくのかなと思いました。

議長 クライミングは、何歳くらいから始めましたか。

委員 高校の山岳部に入り、そこから始めました。

議長 わりと遅いですね。

委員 そうですね。今、国体に出ている、山岳競技・クライミング種目で出ている選手の方は、千葉国体の10年前から、ジュニア競技ということで育成しています。去年の国体でも、天皇杯・皇后杯で見事に1位を獲得しています。やはり、ジュニア・幼少期からの発掘と、育成・強化が大切です。また、私も選手としては卒業しましたが、何かあれば、お手伝いに行きたいと思っています。転居してしまいましたが、手伝いに行ける環境にあるので、そういうサポートも、強化につながると思います。

議長 ありがとうございます。他に、この所がありますか。それでは、4番目『スポーツ環境の整備』は、いかがでしょうか。何か、ございますか。

委員 前回も同じような事を言ったと思いますが、総合型地域スポーツクラブを、文部科学省が推進し始めて20年たっています。今まではどちらかというと、地域のスポーツ環境のために、なんとか育成しよう、増

やしていこうという姿勢であったと思います。もう20年も育成をしているので、そろそろクラブをどの様にして使うかを考えた方がよいかなと思います。具体的には、私の今の健康・体力づくりの職場で一番問題となっているのは、ロコモティブシンドローム予防と認知症予防です。新聞でもにぎわしておりますが、今のところ認知機能低下に対して、ある程度効果がありそうだとされているのは、運動しかないそうです。例えば総合型地域スポーツクラブで、そのような運動効果を上げることができれば、そういった社会課題に対して取り組める組織だ、ということアピールしていけるのではないかと思います。具体的には、72クラブ全部ではできないと思うので、一つでも二つでも集中的に、モデルを作ってみてはどうかかなと思います。作るだけでなく、活用することを考えないと、何のために、地域にクラブが必要なのかを市民の方に理解していただけないのではと思っています。

議長 はい。たしかに総合型というとすぐ、千葉県は、組織数が一番低いという話になりますが、できたクラブをどう活用していくか、どんなクラブになっていくのかは、大事なところだと思います。そのあたり、何かありますか。

事務局 総合型地域スポーツクラブが、設置数が増加すれば、それで満足するわけではございません。クラブによって持っている特色を活かせるような、支援・啓発活動を行っています。高齢者のスポーツといたしましては、先生が言われたように、ロコモティブシンドロームの予防ですとか、健康体操あるいはグラウンドゴルフとか、一般的なスポーツから、新しいスポーツはないかなという所で、スポーツ指導者・推進委員の皆さんと連携して、支援をこれからやっていきたいと考えています。また、障害者スポーツや、小さい子供も取り組めるスポーツも、クラブの方に取り入れて、クラブが継続していけるような支援を考えて、事業を展開しています。

議長 花岡委員さんは、この点について、何かありますか。

委員 むしろ私達障害者自身が、現在取り組まれている総合型地域スポーツクラブに、どうやって障害者スポーツを持ち込めるかを検討したいと考えています。障害者がスポーツをしたいという時に、すぐに受け入れてくれる環境には、今はないと思います。それでも、私自身は、そのような状況の中でもやっていきたいと思っています。なかなかクラブの方にだけ任せるとするのは、難しいことだと思っているので、何か方策があればと思います。

議長 総合型地域スポーツクラブに、障害者の方が加盟をして活動をしているというデータはありますか。

事務局 はい、ございます。つい先日も白井市に、障害者スポーツに特化した、新しいスポーツクラブが誕生しました。白井市も、積極的に支援しております。会場の提供や補助金を出しまして、障害者のための門戸を開いています。そこに、引きこもりやニートの方も参加できるようにし、あるいは子育て世代のスポーツ実施率も低いということもありまして、親子で一緒に体験できるような運動を展開しています。

議長 それは、出来たばかりですか。

事務局 はい。活動自体は1年前からやっていましたが、総合型クラブとして発足したのは、3日前です。

議長 できたてですね。

事務局 はい。あとスマイルクラブというクラブがあります。今年度も、心のバリアフリーを広げる、プロモーション事業を6つ実施しています。障害者スポーツを展開する事業も立ち上げました。そこに、県が共催という形で、知的障害者のバレーボールや、目の不自由な方でも参加できるボーリング大会などの事業と一緒にさせていただきました。好評を得ていました。

委員 ちょっと、一つだけ情報です。昨日見ていたテレビの中で、茨城県の総合型スポーツクラブで、認知症予防のプログラムというのを実施しており、参加者に大変好評でした。千葉県も、そのようなプログラムの

実施を検討していただけたらと思います。

議長 今、テレビでも認知症に関する番組が、すごく多いですね。私も、関心があるので良く見えています。

委員 健康・体力づくり事業財団でも、認知症について取り組んでいます。運動指導者のスキルアップの研修会では、国立長寿医療研究センターの先生方のご指導で運動と頭を使う、ダブルタスクというものをやっています。今、先生からもお話が出ましたが、なかなか開発するのが大変なので、よいものを使わせていただく。ちゃんとそれを指導者の方に、御理解いただいたり、広げたりすると良いのではと思います。

議長 それでは最後の柱、『スポーツを活用した地域の活力づくり』について、何かございますか。

委員 この柱については、われわれプロスポーツチームの、マーケティング部門がもっと積極的に関わっていく必要があると思います。特にプロスポーツに関しては、見るスポーツに関しては、千葉県内、サッカー・バスケ・野球・バレーボール等々、せっかく魅力的なスポーツが揃っているが、我々ビジネス側の人間が、しっかりとしないといけないと感じています。昨年、体育課に御協力いただきました、【ちば夢チャレンジパスポートプロジェクト】は、子供たちにただ試合を見てもらうだけでなく、ふだん野球のチームに勤めている職員が、どんな仕事をしているかを見ていただいたり、試合開始直前のグラウンドで、キャッチボールをしてもらったり、体験型のプログラムをセットにした取り組みをさせていただきました。大変、評判は良かったです。参加された保護者の方々からの声もそうですし、こちらの取り組みは、球団と県だけではなく、地元の企業さんも参画をいただいて、チケットを発売させていただきました。しかし、この審議会に参加させたもらった中で、我々プロスポーツ側も、民間企業として見た時に、積極的な取り組みをしていないと思いました。マリーンズだけでなく、多くのチームと連携して、千葉県の子どもたちに、小学校の間に、間違いなくどこかのプロスポーツチームの試合を見たという経験をもっといただきたい。そういったチームづくりをしていきたいと思います。今後とも、よろしくお願いします。

議長 確かに千葉は、野球が一つ、サッカーが二つ、バスケットもありますしね、そういったプロスポーツの力というものを、ぜひ活用していただきたいと思います。

委員 やはり、支える部分が重要であると感じました。つい先日、文部科学省との共催事業「全国生涯スポーツ・体力づくり会議」で、ヤフーの方に、スポーツによる被災地の復興として、河北新報とツールド東北をやっているというお話をいただきました。そこでは地元の方たちもボランティアとして出て、地元の食材を提供したり、民泊を提供したり、そういうことで、経済効果も高かったそうです。せっかく千葉も少しやり始めているサイクリングとか、人気の高いアクアラインマラソンもあるので、千葉の自然を活かして、県全体を見て回れるような、そんなイベントをもう少しテコ入れして、地元の方々からのボランティアだとか、経済効果を発掘できるとよいですね。逆にその予算を、そこから得られるようなイベントを考えられればと思います。スポーツのイベントは、自分には関係ないや、と思っている人が多くいると思いますが、自分は、走りもしないし、サイクリングもしないけれども、何か支える方で、お祭りに参加できたら楽しいよね、という人が増えてくると、参加意欲も向上するかもと思いました。

議長 はい、ありがとうございます。他にこの項目いかがでしょうか。

委員 私も【ちば夢チャレンジ】、を実際に拝見しました。チャイムが鳴って始まるころや、様々なアレンジが素晴らしいと思います。子供たちが、本物に触れるということの、大切さを痛感しました。一番大事な事は、このスポーツを活用した地域の活力づくりが、この事業だけでなく、柱の1も2も3も、事業間の連携という意味からも、有意義な事業であると思います。野球もサッカーもそうですが、子供たちが、今、立っている同じ場所に、そのあとすぐにプロの選手が立っている姿をみれば、自分もそういうところに行きたいという、夢にもつながりますので、このような事業をもっと推進していくべきだと思います。

委員 私は常々、子供と大人は同じだと思っています。根本的に褒めてあげる。とにかく子供に「良くできたね。」と、老人にも「良かったね。」と褒めてあげると、やる気出ますので、ぜひ表彰ということに、力を入れて

頂きたい。それがテレビなどのメディアでとりあげられると、益々、僕も私もとなってくるので、ぜひ表彰に力を入れて頂くとありがたいと思います。

委員 賛成です。千葉県では、学校体育のダンス発表会をやっていただいています。参加賞を出してもらえないのです。そうすると、どんどん参加校が減っていきます。一生懸命練習させて、交通費をかけて子供を引率してきて発表しても、やった証拠を学校に持って帰れないという状態だと、どんどん意欲が減ってしまっていて、参加校が減ります。賞状一枚あるだけで、生徒も先生も学校としても参加意欲が増えますので、そういう所に予算を配分していただきたいと思います。

議長 予算要望ですね。最後、高橋委員さん、なんでも結構ですが、御意見ありましたら。感想でも結構です。

委員 私は管理栄養士ですので、今まで、県のスポーツセンター等で、栄養指導をさせて頂いております。委員の皆さんが言われていたように、どれも関連しているように思います。例えば、20歳代から50歳代の働き盛りの方々の、運動に対する意欲が低いのと、子供たちの体力の向上が伴っていないのは、家庭の中で運動をしようという意識が下がっていると思います。それと同時に、食事面においても、体力がつくような、元気になるような、食事に対する意識もプラスしながら、イベントとして楽しく取り組めるような啓蒙活動が行われると、全体的には上がってくると思います。管理栄養士・公認スポーツ栄養士を取っている者も県内に沢山いますので、うまく呼びかけて、活躍の場を作っていただけると、お役に立てると思います。

議長 ありがとうございます。まだまだ、御意見があらうかと思いますが、残念ながら時間が来ました。これで、議長の任を解かせていただきます。ありがとうございました。

事務局 長時間にわたりました、ありがとうございました。本日、貴重な審議・御意見をいただきましてありがとうございました。ここで、梅木教育次長より、お礼を申し上げます。

次長 貴重な御意見、ありがとうございました。特に、いろいろと具体的な提案をいただきましたので、教育委員会として、参考にさせていただきながら、推進をしていきたいと思っております。私は健康福祉部で健康づくりとか、福祉の分野で仕事をしてきましたが、皆さんの御意見を聞いていると、まさに、母子保健の関係など、様々な福祉の面からも、県の教育委員会が、どこで、どういう様な事を行っているかについて、十分に伝える必要があると思っておりました。対象になっているのは県民の方たちで、様々な年代がありますが、教育委員会と福祉の分野が、もっと連携をしていけば、皆さんにもっと色々な情報を提供できたり、あるいは施策について、仕組みづくり関わっていくことができると感じました。教育委員会としても工夫していきたいと思っております。

今後とも、是非、色々な御提言をいただきたいと思っておりますし、あるいは、直接的に御協力いただくことも多くあると思っております。その際は、よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。

事務局 本日の会議録につきましては、後日、委員の皆様へ郵送で送らせていただきます。よろしく、おねがいたします。次回でございますが、平成27年度第1回目の審議会でございますが、7月7日を予定しております。会場につきましては、本会場を考えております。本日、貴重な意見を沢山いただきまして、時間が足りないかなということも考えております。これにつきましても、事務局で検討させていただいて、時間の調整をさせていただければと思います。それでは以上をもちまして、すべての議事が終了いたしましたので、会議を終了させていただきます。本日は、ありがとうございました。